



門真市職員労働組合
執行委員長

西本 孝雄

市職労結成35周年を迎え、

新たな歴史を歩む

門真市職員労働組合の結成35周年を全ての組合員・職員のみならずとも喜びあいたいと思います。

市職労は、革新自治体が全国的に誕生する中で、1971年4月30日、801名の組合員と17名の執行部を選出して結成されました。35年の歳月を経て今日の厳しい自治体リストラ攻撃のもとでも、852名の組合員と3支部3補助組織4部会1分会を擁するまでに発展、成長してまいりました。

結成の偉業をなしとげられた結成準備会委員のみならず、結成後奮闘された歴代機関役員の諸先輩のみならず、市職労の団結を守り続けられたすべての組合員のみならずのご尽力があったからこそと、改めて敬意と感謝を申し上げます。

市職労の35年は、いうまでもなく順風

満帆でなく幾多の困難がありました。

結成時の70年代は、賃金の別表廃止やワタリ制度の導入など大きく前進したものの、地方財政危機のもとで255名の解雇撤回闘争、財政再建団体転落阻止への全職員一体となった行財政点検活動の取り組み。80年代は、中曽根「臨調」行

革との地域的・全国的な闘いが展開され、市立幼稚園廃園反対の市民共闘や東洋社の工場閉鎖反対闘争を経て門真労連が結成され、地域共闘へ大きな役割を果たしました。90年代は、バブル崩壊後の不況打開、地域経済を守る闘いでの第2次白書づくりや市財政分析、「住みよい門真へ」をめざした住民団体との共同の取り組み、そして21世紀になって、第2次白書「自立・定住都市・かどま」の発行、地域の方々と「門真の未来とまちづ

くりを考える市民の会」をつくり、住民投票を実現して、守口市との合併を阻止した取り組み、給与構造改革反対のたたかいがありました。

こうした35年の闘いの歴史は、組合員の揺るぎない団結力と、衛都連・大阪自治労連や地域の諸団体をはじめとするみなさんの指導と援助が得られたからこそ今日の姿があると確信するものです。改めて心よりお礼申し上げます。

門真市職労は、混迷を深める政治・経済情勢のもと、35年の闘いを土台にして、さらに大きく飛躍することが求められています。

未曾有の財政危機や「官から民へ」の「行革」との闘い、自立・定住都市・かどまにむけた取り組み、憲法改悪を許さないたたかいなど地方自治体と地域住民、自治体労働運動に新たな課題とその役割が重要になっていきます。

組合員のみならず、労働組合結成から35年という貴重なたたかひの教訓をふまえ、くらしと地方自治、平和と民主主義をまもる闘いの前進によりいっそう奮闘され、市職労の新たな歴史をいっしょに歩まれることをお願い申し上げます。

市職労の35年は、いうまでもなく順風